

このコーナーではK-Car Meetingに、ゆかりのある方々に登場頂き、思い出話いや、今後のK-Carへの想いや時には裏話などを語って頂きます。

そして次の方へとバトンをつないで頂きます。その名の通り『メッセージリレー！』

記念すべき第1回目は、K-Car Meetingの元祖「K-CARスペシャルミーティング」開催立ち上げより支援頂きましたテイクオフの米田さんよりスタートしました。

今回は、第2回目です。米田さんよりバトンを受けました郡山さんです！

次は貴方の番かもしれません。お楽しみに！

Message Relay

第2回

今から30数年前、私はホイールで有名なハヤシレーシングに在籍しておりました。そこで軽自動車専門のスポーツブランド、パスタースポーツを設立し、様々な用品・部品類を開発してきました。

当時は鈴鹿サーキットに事業部があり、特に足回りやエンジンパーツの開発には最適な環境でした。

その後独立し株式会社オートジュエルを設立、後にチューニングショップとしてパワー・ハウスDTMを設立し今に至ります。



オートジュエルを立ち上げた頃は、まだ軽自動車のチューニングは黎明期で、まだまだ文化としての下地が出来上がっていない時代でした。

ちょうどその頃、軽自動車の専門誌としてK-carスペシャルが創刊しました。

その後次々と軽自動車のチューニングショップが誕生し、業界として盛り上がりを見せてきました。

ゼロヨンイベントや、谷田部テストコースでの最高速アタックといったようなイベントなどは行われていましたが、まだサーキットで競い合う、本格的なレースイベントは行われていませんでした。

その後、テイクオフの米田代表がK-carスペシャル編集部と共に作り上げたのが、K-carスペシャルミーティングでした。その後いろいろな流れがあり、現在のK-carミーティングへと姿を変えましたが、伝統を受け継ぐ大切なイベントです。

レースは勝負の場ではありますが、一方で性能を上げるための製品開発の場でもあります。

我々も近年の変化の激しい時代に遅れないよう頑張っていきたいと思います。

その為にも、この伝統あるK-car MEETINGが継続して開催されるよう、心より願います。

ワーハウスD.T.M 代表 郡山 嘉勝

次はトータルチューンワークスの近澤さんです。

